

# ニュースレター

## No.12

*News Letter*

INSTITUTE FOR THE STUDY OF CHRISTIANITY AND CULTURE KANTO GAKUIN UNIVERSITY



あいさつ

キリスト教と文化研究所  
所長

森島 牧人

2001年10月13日に発足しましたこの「キリスト教と文化研究所」も、早いもので四年目を迎えます。これまで当研究所に寄せられました多くの方々からのご支援ご協力に感謝いたします。

今年度の当研究所所員の構成は、文学部から選出の所員（富岡 幸一郎教授、森島 牧人教授、矢嶋 道文教授）、経済学部から選出の所員（安田 八十五教授、古庄 修教授、村上 顕教授）、工学部から選出の所員（榎木 紀男教授、松田 和憲教授、箕 弘幸教授）、法学部から選出の所員（影山 礼子教授、村椿 真理助教授）、人間環境学部から選出の所員（大豆生田 啓友助教授、所澤 保孝教授、帆苺 猛助教授）で、総勢14名です。

研究所の運営に関しては、日々の活動の活性化を願って、所長の下に各研究プロジェクトの責任者、資料委員会の責任者、Web Page等広報部門の責任者、所報等出版部門の責任者および事務からなる運営委員会を組織し、毎月全体の調整を行っています。また2005年度の研究活動の概要は、以下の如くに要約することができます。

### A. 研究会の開催

本研究所は創設期より3つの部門（文化、生命倫理、奉仕教育）を設け研究を進めてきましたが、本研究所の前身が「プロテスタント史研究所」であることから、2004年度にはその伝統を受け、歴史研究部門に関する以下の二つの研究グループを立ち上げました。一つは、「坂田資料研究特別チーム」（世話人：帆苺 猛助教授）で、本学の建学の精神「人になれ 奉仕せよ」の制定者である坂田 祐元学院長の人と思想を、特にその残された日記（坂田日記）の解説を通して研究しています。その成果は研究所『所報』第3号に収められています。二つめは、「バプテスト研究」（世話人：村椿 真理助教授）です。本学院教育の基盤であるキリスト教はバプテスト派の伝統をもっていますが、ここではこのバプテスト派に関する歴史神学的研究を進めています。

各研究グループは年間を通じ研究会を開催してゆきますが、2004年度ではその数は21回を数え、そのなかには公開型研究会の開催もありました。

### B. 公開シンポジウムの開催

研究所の活動の一環として公開シンポジウムが毎年計画されます。昨年度は「奉仕教育における課題と実践」研究グループ（世話人：村上 顕教授）が企画し、1月12日に開催しました。シンポジウムは、所員である所澤 保孝教授

#### CONTENTS

あいさつ	1~2
各研究グループの2005年度活動計画について	2~4
委員会活動計画	5

● 研究ノート	6~7
● 2005年度所員・研究員・客員研究員の紹介	7
● 出版ニュース	8
● 寄贈図書一覧	8

(人間環境学部)の基調講演「関東学院における奉仕教育」を受けて、現場での奉仕教育に携わっている阪井 隆教諭(関東学院中高宗教主任)および木本 喜将教諭(関東学院六浦中高聖書科)を発題者にしてパネルディスカッション形式で行われました。参加者は学生を含め80余名あり、関心の高さがうかがわれました。今後関東学院大学の研究所として取り上げていくべき主要なテーマ(建学の精神の内実化)の一つの方向性を示すものであったと考えています。

### C. 研究プロジェクトの立ち上げ

本研究所は「倫理」・「教育」・「歴史」・「文化」の4つの研究部門を置き、それぞれ研究会を開催して活動を行っていますが、今年度はさらに、各部門から特色ある研究プロジェクトが立ち上がってくるよう願っています。2005年度の新たな研究員・客員研究員は、この研究プロジェクトの立ち上げに即して各研究プロジェクト単位で募集してゆく計画です。

### D. 資料収集活動の充実

本研究所はこれまでも各研究グループの研究図書及び貴重図書の収集に心がけてきました。これまでに購入の貴重図書は104点にのぼります。今年度は矢嶋 道文資料委員長を中心に活動を進めます。

### E. 所報「キリスト教と文化」第4号の発行

本研究所は発足以来、毎年その年度の研究活動の成果を所報にまとめ発行しています。それ

は本研究所の存在を内外にアピールする大きな手段となっています。昨年度の第3号では、紀要本来の掲載事項である研究論文3篇、研究ノート3篇のほか、前項の公開シンポジウムの討議の内容、および研究所発足時より活動してきた「いのちを考える」、「奉仕教育における課題と実践」、「キリスト教と日本の精神風土」、3グループの第二期に於ける研究活動の総括を掲載しました。今年度も紀要としての内容充実を図っていきたいと考えています。

### F. ニュースレターの発行

研究所の発足当初においては、年4回発行していましたが、研究会、公開シンポジウム、所報の発行等の活動スケジュールに照らし、研究所の日々の活動状況等を各方面に知らせることがニュースレターの役割という認識のもと、今年度の発行は年3回とし、内容のさらなる充実に努めたいと考えています。

### G. ホームページの充実

本研究所は、創設時より独自のホームページを立ち上げ、研究所諸活動の情報発信に努めてきました。今年度はIT関連を専門とする蓑教授に加わっていただけますので、より充実した内容になると期待しています。

最後になりましたが、日頃のご理解を感謝すると共に、これからの研究所の活動すべてに、皆様方からのご支援を宜しくお願い申し上げます。



## 2005年度「いのち」を考える研究グループ 活動計画

### 松田 和憲

わたしたちのグループは、今年度「大学生がいのちと出会う」というテーマのもと、基本的には従来までと同様、研究グループとしての研

究会、読書会等の集会を定期的(隔月ごとの開催予定)に続けていく予定である。前年度までと異なる点は、今年度、大豆生田先生が人間環境学部・後期で実施される「総合演習(保育士・幼稚園教諭免許取得のための教職過程)一年生担当」の授業に出来るだけ研究員たちが参加し、中でも数名は10月頃に3~4回にわたり、

直接授業の一端を担当しながら、その前後において、準備段階からグループとして関わり、学生たちとのディスカッション、またアンケートなども用いて、学生達の「いのち」に関する反応、関心度、捉え方などを集約し、その成果をフィードバックする形でまとめて、それを何らかの形で「所報」に掲載したいと思う。今年度は「大学生といのち」という切り口で、今まで

より一歩進んだ研究の成果を出したいと願っている。

また、当研究グループが今年度担当ということで、学生、教職員に門戸を開いた「シンポジウム」や「特別講演会」などを企画したいと願っている。出来ること、出来ないことを見極めながら、今後も地道な活動を行なって行きたいと思う。(文責：松田 和憲)



## 2005年度「バプテスト研究プロジェクト」活動予定

### 村 椿 真 理

本プロジェクトは前年度に引き続き、「バプテスト派の歴史的貢献」との主題のもと、研究プロジェクトメンバーによる研究発表会を継続し、各自それぞれのテーマに従った邦文研究論文の執筆にあたる。

既に4名の研究中間発表が第3回及び第4回定例会にて行われたが、本年は5月28日(土)に行われる第5回定例会において森島 牧人所員の発表が行われる他、秋に開催される第6回定

例会では、佐々木 敏郎客員研究員の発表が決まっている。これまでの研究発表会は、いずれも研究者の情熱と研究使命に溢れたものとなり、発表に続く参加者の質議も毎回時間が足りなくなるほど活発に行われた。発表は緻密な研究成果の一部を選びすぐって紹介するという形をとったが、その内容はやがて論文として結実し、多くの読者の目に触れるものとなる予定である。今年度終盤は、プロジェクトの総括として、執筆された論文をとりまとめる調整作業へと移行したい。また年度後半には、次期「共同研究体制」形成に向けて、合理的な構成的企画を皆で協議したい。(文責：村椿 真理)



## 2005年度「奉仕教育の課題と実践」研究グループ活動計画

### 所 澤 保 孝

「奉仕教育の課題と実践」研究グループは、これまで奉仕・体験学習・ボランティアの教育に関するアンケート調査研究、小学校・中学校教科書に見られる奉仕・ボランティア活動の分析的研究、建学の精神・校訓と奉仕教育の関係の研究等を行い、その成果を研究所所報に発表してきた。また昨年度は「関東学院の奉仕教育」

と題して関東学院中学・高等学校、関東学院六浦中学・高等学校の実践をまじえて公開シンポジウムを開催した。今年度は奉仕教育の根底をなす人格形成の理論的研究とその学校教育への応用を中心的テーマに、研究会を6回、予算的に可能であれば講演会を1回実施することを計画している。また、昨年・一昨年に引き続き、建学の精神・校訓の奉仕教育への展開の実践的研究も継続してゆく。(文責：所澤 保孝)



## 「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ 2005年度の活動計画



### 精木 紀男

世話人（暫定） 精木 紀男

2005年度は第1回の研究会を下記の日程、テーマで開きます。

日 時：2005年6月18日（土）午前10:00～12:00

発題者：富岡 幸一郎 所員

発 題：武士道と内村 鑑三

今年度の活動については、まだ、検討しておりませんので、第1回の研究会時に、昨年来のメ

ンバーと、新しく加わられたメンバーともども、具体的に決めることになっております。

運営としては、昨年までと同じく、年5回程度の定例研究会を予定することになるでしょう。また、そのうち、1～2回は公開研究会として広く学内外に参加を呼びかけることもあるかと思えます。

昨年度までの3年間を振り返り、研究会の名称も含めて研究の方向を、上記の第1回研究会で決める予定です。（文責：精木 紀男）



## 坂田祐研究グループ 2005年度研究計画



### 帆 莉 猛

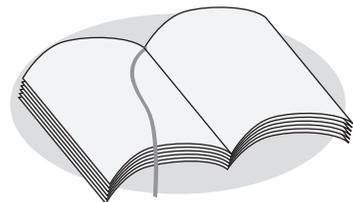
一昨年、坂田家より、坂田 祐先生の膨大な日記をキリスト教と文化研究所に寄贈していただいた。日記は日本文のものと英文のものからなるが、これは関東学院の歴史を究める上でも大変貴重な資料である。

昨年より、研究グループが組織され、日記の解説を中心とする研究が始まった。解説は、日本文の日記をご子息の坂田 創氏、英文日記を佐々木 晃氏にお願いして進めている。日記の量が膨大なので、この作業はかなりの期間を要するものと思われるが、地道に続けていかなければならないと考えている。

さらに今年度からは、日記の解説にあわせて、坂田先生の生涯をたどっていく予定にしている。坂田先生を理解していく上では、その生涯を考察することは欠かせないことだからであ

る。また、坂田先生に関する資料が坂田記念館などに納めてあるが、その中には劣化の激しいものも見受けられる。したがって、これらの資料を順次デジタル化して保存する作業を進めていきたい。

前学院長の小川 圭治先生が坂田先生の東京大学の卒業論文を紹介し、それについての考察も加えて発表してくださった。この卒業論文なども合わせて、坂田先生に関する資料集、あるいは坂田先生の略伝のような形で結実することを望んでいる。（文責：帆莉 猛）



## 資料委員会 活動計画

2005年度における資料委員会の活動は、村椿真理助教授を中心になされた過去3年間の礎的活動を引き継ぐ形で行う。

当資料委員会は、(1)旧「関東学院大学日本プロテスタント史研究所」(1957年～1973年)所蔵文献の再調査およびその整理、(2)日本バプテスト史関連資料の発掘・収集、(3)関東学院史関連資料の発掘・収集、を主目的に2002年度以来活動している。

このうち、(1)については、初年度の再調査で旧研究所発行「日本プロテスタント史関係資料目録(その1)」373点中、128点の資料が図書館本館内に確認された。同2年目の調査で

## 矢嶋道文



は、千数百冊に及ぶ旧研究所所蔵図書のうち、およそ5分の1が、同3年目の調査では、およそ半数が整理・確認されるに至っている。ついで、(2)については、初年度にW.J.ホワイトの関係資料を含む34点が、2年目には44点が、3年目には28点の関連資料がそれぞれ入手された。また(3)については、『坂田日記』調査等へのバックアップを主に進めている。

2005年度は、(1)～(3)を継続する一方、図書館本館の協力・支援の下、関連資料の一元的な整理・保管のあり方を模索・検討したい。(文責：矢嶋道文)

## 広報委員会 活動計画

広報委員会の活動計画は、ニュースレター等の刊行物を編集、出版すること、及び2002年度開設され3年目を迎えるホームページのコンテンツを一層充実することである。

特に、近年のインターネット環境の飛躍的な発展に鑑みて、ホームページを媒体として研究活動に関する情報を速やかにアップデートし、世の中に発信していくことは、広報委員会の重要な責務である。本年度は、コンテンツの充実とともに、円滑な情報更新作業の手順確立を目指し、事務局と連帯して活動する。

次に具体的な活動予定を2点示す。

(1) 研究所ホームページのポータルサイトに、

## 箕弘幸



現状のフラッシュ版の他、シンプルなHTML版を加えたい。このことは、閲覧ソフトにマイクロソフト社のインターネットエクスプローラを用いないユーザーに対して配慮するものである。

(2) 研究会開催のお知らせなどの新着情報を、出来るだけ速やかに掲載する為の手續きを確立させたい。このような更新作業は事務局担当のコンピュータスキルと密接に関連しており、担当者のスキルアップも課題であるが、そのスキルにあわせたホームページの構成に変更することも視野に入れて活動する。(文責：箕弘幸)

### 訂正とお詫び 3月発行の所報「キリスト教と文化」第3号に関する訂正

98ページ関東学院歴史資料室を関東学院資料室  
109ページ左側29行目、酒枝 善旗氏を酒枝 義旗氏

坂田 祐先生に関する資料は、学院資料室ではなくキリスト教と文化研究所で保管しております。

## バイオエシックスとキリスト教生命観の諸側面

客員研究員 石谷 美智子

研究プロジェクト「いのちを考える」のグループに属して研究員諸氏の発表に刺激を受けてきた私にとって、「生の肯定と死の受容」という二年目のテーマは大変関心の深いものであった。ここでは、現代のアメリカでバイオエシックスという分野が成立・変化してきた経緯の中に、キリスト教と文化形成の関わり的一端をみることにする。

### バイオエシックスと近代合理主義精神

アメリカにおいて1960年代から70年代にかけて新たに注目されるようになった領域、バイオエシックス（生命倫理学）の基盤には、近代合理主義があった。特に、神との契約の下での平等性を強調した神学者ポール・ラムゼイが、『人間としての患者』（1970）の中で、自らの運命を主体的に決定する確固たる自我に立脚した近代的個人としての患者像を提示した意味は大きかった。この精神は、公民権運動、消費者運動、反戦平和運動、女性解放運動、人権運動など個人の権利、自由の拡充を求める広範な社会運動と相互に呼応するものであった。医療技術の進歩、病気の質の時代的变化と相俟って、バイオエシックスの発展により、医療提供者と患者の関係は、医者中心のバターナリズム（父権主義的配慮）から、患者の自己決定の尊重へと質的に大転換をしたのである。

### キリスト教生命観の対立

しかしながら、一方で、患者の自己決定を重んじる立場は、自分で自分のいのち、治療に関する決定権を認めるという点で、キリスト教生命観とは相容れない二律背反性を内在する。すなわち、いのちは神の支配のもとにあり、被造物たる人間の意思で自律的に左右する領域では

ないとする立場と対立する。さらに、「生命の尊厳」の尊重も、人間の側からとらえる生命の質の捉え方により、方向は対極的にもなる。一例として、現在のプッシュ政権を支える保守的な原理主義的キリスト教の立場は、重要な政策課題として「生命の尊厳」を旗印に掲げる。植物状態にある人も生命を断たれてはならないとする主張や、妊娠中絶を擁護する途上国支援団体には公的援助をしないなどの方針もその路線のあらわれである。これらは近年深刻な意見の対立をよんでいる課題である。

### バイオエシックスにおける 共同体優先主義への移行

アメリカにおけるバイオエシックスの発展は、「患者の権利宣言」（1972）、「自己決定権法」（1990）などに結実する一方、その個人主義的人間観、リベラルな多元主義、手続きを重んじる普遍的原理主義に反省・批判が出るようになった。個別的な状況の重視、人間の社会的属性、社会が共有する共同体価値、死者と生者の共同性、文化や伝統など人間を結びつけるものの再評価を、バイオエシックスも取り込むことになった。英米型の医の倫理は、重心が個人の自己決定から、むしろ公共選択へと変化することになってきた。当然、この傾向は、個人の自由な選択を阻害し、既得権益擁護に傾く危険をもちあわしている。ここでもまた、キリスト教理念の解釈が大きな影響力を持ってせめぎあっていることに注目しなければならない。

日本においても、近年共同体主義的生命倫理学の主張が評価される傾向にあるようであるが、日米の背景の違いを認識する必要性を指摘したい。たとえば、インフォームド・コンセントを取り上げるとき、医者患者関係において契

約関係より信頼関係を強調するならば、キリスト教的契約の思想や個人の権利尊重の伝統や共通認識が希薄な日本の特質を考慮し、慎重でなければならないのである。

### 生命の実存的・根源的取り組み

キリスト教生命観は、当然もうひとつ別の面からも挑戦を受けている。クローン、最先端生殖医療、臓器移植などの高度医療技術が進歩して、専門性と閉鎖性が増大し、いのちの問題が、将来の予測が不可能なほどになっていることである。現在、アメリカ政府は、行き過ぎた生命

操作を招きかねない科学研究の暴走を抑制するため、ヒトクローン胚作製の研究に対する公的助成を禁止するといった政策をとっているが、これもまた、きわめて宗教的で、政治的な争点となっている。

老いと病と死を、人間性の本質に属するものとして実存的、根源的に向き合うために、人文学や宗教がになう役割が増しつつある一方、生命にかかわる具体的な選択、方針、政策については、開かれた議論とさまざまな生命観の吟味がますます必要になっているのである。

## ✎✎ 2005年度所員・研究員・客員研究員の紹介 ✎✎

所 員	
所 長 森島 牧人 (文学部教授)	「キリスト教と日本の精神風土」研究グループ
「いのち」を考える研究グループ	精木 紀男 (工学部教授)
松田 和憲 (工学部教授)	富岡 幸一郎 (文学部教授)
大豆生田 啓友 (人間環境学部)	「国際理解とボランティア」研究プロジェクト
「奉仕教育の課題と実践」研究グループ	古庄 修 (経済学部教授)
所澤 保孝 (人間環境学部教授)	資料委員会 矢嶋 道文 (文学部教授)
村上 顕 (経済学部教授)	広報委員会 箕 弘幸 (工学部助教授)
影山 礼子 (法学部教授)	所報委員会 安田 八十五 (経済学部教授)
「バプテスト研究」プロジェクト	
村椿 真理 (法学部助教授)	
「坂田研究」グループ	
帆苺 猛 (人間環境学部助教授)	
	研 究 員
	「奉仕教育の課題と実践」研究グループ
	高野 進 (経済学部教授)
	「国際理解とボランティア」研究プロジェクト
	細谷 早里 (経済学部助教授)

客 員 研 究 員				
長井 英子(本学非常勤講師)㉞	松岡 正樹(京都バプテスト教会牧師)㉞㉟	花島 光男(キリスト教学校教育同盟事務局主事)㉞		
佐々木 敏郎(元法学部教授)㉞㉟	小川 圭治(元学院長)㉞㉟	大島 良雄(元文学部教授)㉞㉟		
吹抜 悠子(キリスト教メンタル・ケアセンター理事、相談役)㉞	中島 昭子(捜真女学校中学部教頭)㉞㉟㉟			
石谷 美智子(本学非常勤講師)㉞	安達 昇(横浜市立青葉台小学校教諭)㉞	川島 第二郎(日本バプテスト横浜教会員)㉞㉟		
坂田 創(元関東学院中・高等学校教諭)㉞	佐々木 晃(元関東学院中・高等学校教諭)㉞			
藤原 久仁子(日本学術振興会特別研究員)㉟	三浦 一郎(本学非常勤講師)㉞			
田中 喜芳(ニューポート国際大学大学院客員教授)㉟	飛田 伸一(本学名誉教授)㉟			
田代 泰成(横浜女学院中・高等学校教諭)㉟	三井 純人(カウンセラー)㉟	山本 直美(自治医科大学非常勤講師)㉟㉞		
鳥田 正敏(関東学院六浦小学校長)㉞	勘田 義治(本学非常勤講師)㉞			
参加研究グループ	㉞ いのちを考える	㉞ 資料委員会	㉞ バプテスト研究	㉞ 坂田研究
	㉟ キリスト教と日本の精神風土	㉞ 国際理解とボランティア		

## 出版ニュース

- ◆ 著書名：「ワークブック よくわかるキリスト教入門Ⅱ」
- ◆ 著 者：森島 牧人、村椿 真理、帆苅 猛、松田 和憲

今春、関東学院大学出版会から「ワークブック よくわかるキリスト教入門Ⅱ」が出版された。本書は、現在本学各学部でキリスト教関連科目を講じる4人の専任教員により執筆されている。本書の特色は、①関東学院大学各学部におけるキリスト教関連科目をこの一冊ですべて網羅している。②どの科目も、シラバスに沿った14個のテーマから構成されている。③そのタイトル（ワークブック）が示すとおり、すべての学生が毎時間予習からレポート作成にいたるまで、無理なく学んでゆけるように配慮されている。以上の点から考えると、本書は読むためのテキストと言うよりは、学生がキリスト教に関連する各テーマを主体的に学習するためのマニュアルであると言えよう。

## 寄贈図書一覧

No	書 名	著 者 名	寄 贈 者 名
1	いのちへのまなざし	日本カトリック司教団	安田八十五(所員)
2	「いのち」を考える授業プラン48	安達昇編 著	安達昇(客員研究員)
3	「省エネ」を考える授業プラン53	//	//
4	人間関係を豊かにする授業プラン50	//	//
5	みんなとの人間関係を豊かにする授業実践プラン55	//	//
6	学校知を組みかえる 新しい学びの授業をめざして	今野喜清	//
7	リアルタイム法学・憲法	三浦一郎	三浦一郎(客員研究員)
8	平和づくりを使命として	石谷 行 著 石谷 美智子 編	石谷美智子(客員研究員)
9	「聖女」信仰の成立と「語り」に関する人類学的研究	藤原久仁子	藤原久仁子(客員研究員)
10	私の敬愛する人々—考え方と生き方—	武田清子	影山礼子(所員)
11	東北農村と福音	斉藤久吉 角谷晋次 共 著	斉藤久吉(外部)
12	心の時代 愛と希望の信仰	斉藤久吉	//
13	みちのくの三愛運動	角谷晋次	//
14	聖書と人生	//	//
15	難病生活と仲間たち	山田富也 白江浩	//
16	御心が地になるように	斉藤久吉	//
17	横浜の教育と文化(一)	財団法人大倉精神文化研究所	小玉敏子(外部)
18	英学と宣教の諸相	小林功芳	小林功芳(外部)
19	バプテスト派形成の歴史神学的意味	森島牧人	森島牧人(所員)
20	死を考える—関東学院大学人文科学研究編—	杉田正樹、森島牧人 他、共著	森島牧人(所員)
21	いのち—生命について考える(濱田恂子編)	濱田恂子、森島牧人 他、共著	森島牧人(所員)
22	バプテストの教会契約(約束に生きる真の教会をめざして)	村椿真理	村椿真理(所員)
28	日本につくした宣教師たち	大島良雄	大島良雄(客員研究員)
24	灯火をかかえて	大島良雄	大島良雄(客員研究員)
25	近代日本の「重商主義」思想研究	矢嶋道文	矢嶋道文(所員)
26	神の国をめざして—日本救世軍の歴史—①(1895~1926)	秋元巳太郎原 著・杉森栄子増 補編者	花島光男(客員研究員)
27	神の国をめざして—日本救世軍の歴史—②(1927~1946)	秋元巳太郎原 著・杉森栄子増 補編者	花島光男(客員研究員)
28	ヨーロッパの巡礼地 (文楯堂)	ルードルフ・クリスルンツ・レッテンバック 著・河野眞訳	花島光男(客員研究員)
29	主の御手に守られて	ジュディスD.ディローフ 著・志賀ミチ 訳	出版会

(2005年6月末までに寄贈された書物)

## 関東学院大学 キリスト教と文化研究所

〒236-8501  
 神奈川県横浜市金沢区六浦東一丁目50番1号  
 TEL : 045-786-7873 (研究所直通)

発行者：森島 牧人  
 Director : Makito Morishima